

JAL2015 公開ワークショップ参加者によるアンケート調査結果報告

1. アンケート調査方法

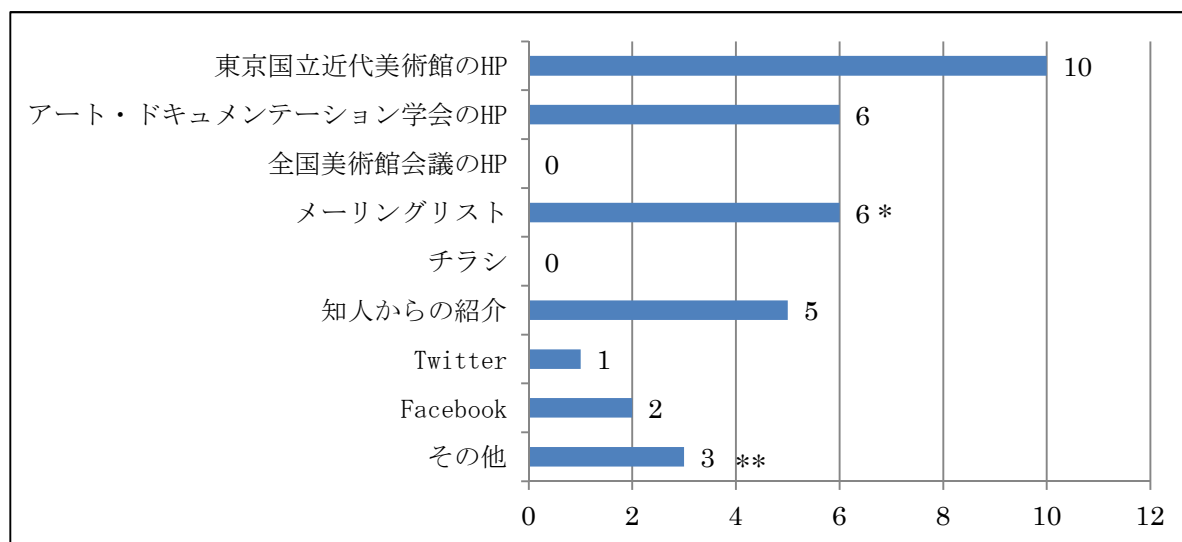
日時：2015年11月27日（金）10：20～17：30

場所：東京国立近代美術館講堂

アンケート総数：21件

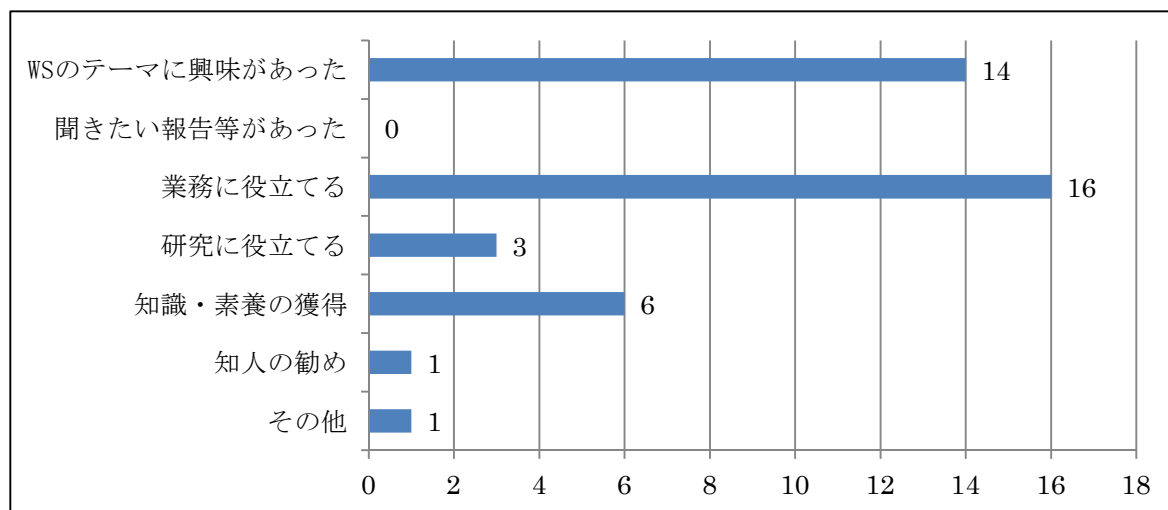
2. アンケート詳細

1) JAL2015 公開ワークショップについて情報の入手先



* メーリングリスト：アート・ドキュメンテーション学会 ** その他：JAL2014、同僚

2) 参加の目的



3) 満足度

アンケート21件全てが【満足】と回答

4) 興味・関心のあった報告

■ロンドン SOAS のジョンさん、韓国国立近現代美術館デジタルアーカイブの李さんなど。各館の人的体制、組織図が興味深かった。ユーザーの視点だけでなく、運営側の課題を共有できればもっと良かった。

■日本側への提言に対して、日本側としてどう対処していくのかを話し合う機会があれば良かった。

■幅広いテーマと切り口でのお話が非常に勉強になりました。

■Carolyn Jane Wargula 氏の報告。ヒルマン図書館の設置が国家防衛教育法によるものということに触れて紹介して下さったこと。

■午前中のご本人たちの紹介・報告、昨年よりも良かったように思います。メタデータの標準化、美術館・図書館・文書館との連携の必要性、以前よりも強く感じます。招へい者の方々への手助けができればと思います。

■3 グループの提言が素晴らしかった。日本と共同でプロジェクトができると良いですね。

■ジョンさん、ヴィーベッケさん、ケビンさん。

■ヴィーベッケ氏。現在司書の卵の立場からの意見で角度が違った。初心を思い出させてくれた。

■ジョンさんのサブジェクト・ライブラリアン視点の発表が勉強になった。

■全機関の紹介（特にレッドファーン氏、ウッド氏、ワグラー氏）。マクヴェイ山田氏。小出氏。

5) 意見・感想

■最近の海外の美術館図書館の動向を概観するようなレクチャーがあると良い。また、“交流”ということ言えば、日本の美術系の司書が海外の美術図書室の視察をする機会があっても良いのではないか。日本の美術司書（アートライブラリアン）の人材育成にもつながるでしょうし、そうしないと衰退していくばかりだと思う。若手の支援を！！システムも大事だが、それを構築・運営する人材不足では元も子もない。雇用の問題にもっと焦点を当ててもよいのでは？（海外の事例など）

■日本語の語学力と問題意識、非常にレベルの高い招へい者なため、招へい者を募るのにはご苦労があったかと思います。WS のプロポーザルにどう応えていくか、何ができるか、も何らかの形でフィードバックする機会があると良いのではないかと思えるのと、招へい者の職場を訪ねられた水谷氏の報告の時間があると良いと思います。

■日本側の受入先についての情報を共有できるようにしなければ招へい者の学んだことが理解できないのでは？（一般の方対象を考えた場合）

■“目録の共有化”という話題に関して。国文研と NII の協同プロジェクトが最近動き始めていることとあわせて、国内の古典籍の目録ルールを作っている国文研が今後の情報発信・国際化をどう進めているかは JAL プロジェクト参加者を繋げる意味でも大切ではないかと思いました。提言は日本国民にとっても、利用上のバリアを取り除くことにつながるなと思いました。特定の所属に無く、学際的に研究を深めようとする場合、日本人でマスター終了者でさえも適切に DB にたどりつけないことが最近増えているので。

■招へい者の年齢構成が良かったと思います。次年度はアジア・ロシア・南米などからもお招きできるといいかなと思います。もしくは、日本人研究者、日本の図書館員などが逆に海外へ行って実状を知るチャンスを与えていただくのもいいかなと思います。

■英語で研修ができると良いと思います。

■サブジェクト・ライブラリアンについてもっと知りたいと思いました。

■JAL プロジェクト参加者の方々が大変盛んで意欲的、そのうえとても優れた有益な数々の提言をされたと理解しています。プロジェクトの成功に拍手を送ります。

■言語については、日本語にあまり限定しなくても良いのではないかなと感じました。